

福岡県糖尿病協会(日本糖尿病協会 福岡県支部)の概要

- 名 称 福岡県糖尿病協会(副称:日本糖尿病協会 福岡県支部)
- 所在地 〒812-858 福岡県福岡市東区馬出 3 丁目 1 番 1 号
(事務局) 九州大学大学院 医学研究院 病態機能内科学 第二研究室内(糖尿病研究室)内
電話(FAX)番号 092-631-0656
- 目 的 福岡県糖尿病協会(副称:日本糖尿病協会福岡県支部)(以下「県協会」という)は、公益社団法人日本糖尿病協会(以下「日糖協」という)と連携して、広く糖尿病に関する知識の普及啓発を行い県民の健康増進に寄与するとともに、会員の資質の向上と交流を図ることを目的としています。
- 設 立 1960 年(昭和 35 年)4 月 福岡県糖尿病協会(あさひ会)として、全国に先駆けて発足。
1961 年(昭和 36 年)9 月 日本糖尿病協会創立に伴い日本糖尿病協会福岡県支部に。
1987 年(昭和 62 年)3 月 社団法人日本糖尿病協会創立に伴い社団法人日本糖尿病協会福岡県支部に。
2013 年(平成 25 年)4 月 日本糖尿病協会本部の公益社団法人化に伴い、福岡県糖尿病協会(副称:日本糖尿病協会福岡県支部)に。
- 役 員 会 長 佐 藤 雄 一 (聖マリア病院 糖尿病センター長)
副会長(北九州ブロック長) 藤 本 良 士 (新小倉病院 糖尿病センター長)
同(福岡ブロック長・事務局長) 野 原 栄 (福岡東医療センター糖尿病・内分泌内科医長)
同(筑後ブロック長) 赤 司 朋 之 (嶋田病院 内科部長)
同(筑豊ブロック長) 迫 博 康 (済生会飯塚嘉穂病院 院長)
同(外務担当) 小林邦久(福岡大学筑紫病院 教授 内分泌・糖尿病内科診療部長)
同(内務担当) 大隈俊明(九州大学大学院医学研究院病態機能内科学助教)
- 会 員 等 ◆会員は、医師、看護師、栄養士、糖尿病療養指導士など医療関係者と糖尿病患者及びその家族、一般の方々(個人・法人)から構成されています。
◆現在、約 150 の友の会(各地の医療機関ごと)と約 3,800 名の会員を擁しており、47 都道府県の中で友の会の会員数が最も多い協会となっています。
- 入 会 等 ◆友の会に入会すれば、自動的に県協会、日糖協の会員になります。
◆会費は、友の会によって異なりますが、県協会会費は、3,000 円(本部会費 2,400 円含む)ですが、現在、日糖協本部から地域活動費が交付(当面の間)されているため、年額 2,400 円(全額を本部会費に充当)に据え置いています。
◆会員のメリットとしては、
①月刊誌 糖尿病ライフ「さかえ」(540 円/冊)を毎月無料で読むことができます。(糖尿病療養の最新情報の入手)
②日糖協、県協会(県支部)、友の会主催の糖尿病教室など各種のイベントに参加することができます。(参加による治療の充実と効率化)
③患者・家族会員との各種教室、ウォークラリー、研修旅行等へ参加し、仲間(患者や医療関係者)と交流ができます。(参加・交流により自己管理の生きた成果を習得できます)

④その他、糖尿病を中心とする健康についての正しい情報が得られます。

■主な活動

○県協会(県支部)活動を支えているのは、会員及び医師、糖尿病療養指導士(CDE)など医療関係者のボランティア精神です。

○広く県民の方々に糖尿病のことを知っていただくために、各種啓発活動は、原則として県内4ブロック(福岡、北九州、筑後、筑豊)で開催しています。

◆普及啓発活動

○世界糖尿病デー(11月14日)を含む全国糖尿病週間行事として、糖尿病の集い(講演会、血糖自己測定指導、医療・栄養相談、各種展示など)や世界糖尿病デー・ブルーライトアップイベントを県内4ブロックで開催しています。

○また、「糖尿病及び合併症予防のための講演会」や「歩いて学ぶ糖尿病ウォークラリー」もブロックで開催しています。

○この他、各ブロックや各友の会では、講演会、糖尿病教室、ウォークラリー、研修旅行(宿泊・日帰り)、親睦会、料理教室、笑いヨガ、iPad脳トレ体験など特色ある取り組みを行っています。

◆登録医・療養指導医・専門医部会(略称「医師部会」)活動(会長 角田稔 県協会常任理事)

糖尿病の治療は、その発症年齢、生活状態、合併症の有無などにより様々で、療養指導やチーム医療の重要性が叫ばれる中、糖尿病の専門医と非専門医や診療科の枠を越えた医師の幅広い連携が求められています。

このような中、県協会(県支部)では、日糖協登録医・療養指導医制度を発展させるために、平成21年6月21日に医師部会を設立し、県内の登録医・療養指導医・専門医の相互交流や研修環境を整え、日糖協糖尿病療養指導医の取得を目指した「実地医家のための糖尿病セミナー」を県内4ブロックで開催(4地区×6回/2年1クール)しています。

◆福岡県糖尿病療養指導士会(会長 大部正代 県協会常任理事)の支援・連携

1996年から全国に先駆けて、北九州地区、筑後地区、福岡地区、筑豊地区の順に地域糖尿病療養指導士(LCDE)制度を発足し、様々な研修や資格試験を一本化し、質が担保された約2,100人が地域糖尿病療養指導士(LCDE)として認定されています。

看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師など、糖尿病療養に関わるあらゆる職種の方が集まっており、院内では、チームでの糖尿病教室等を行うとともに、県協会(県支部)の活動をはじめ、地域での街頭キャンペーン活動やウォークラリー、糖尿病教室、血糖自己測定指導など糖尿病予防啓発活動に積極的に取り組んでいます。

平成20年には、福岡県(北九州・福岡・筑豊・筑後)の糖尿病療養指導士会の取り組みが評価され、第1回糖尿病療養指導鈴木万平賞を受賞しました。

受賞を契機に糖尿病療養指導士の知識の更なるレベルアップを図り、糖尿病療養指導士間・ブロック間の相互連携を深めるために福岡県糖尿病療養指導士会が設立(23.10.10設立)されました。

◆福岡県糖尿病対策推進会議構成員としての活動

平成17年(2005年)2月、日本医師会、日本糖尿病学会、日本糖尿病協会の3者は、糖尿病が急激に増加する中、糖尿病対策を積極的に取り組む必要があるとの共通認識のもとに「日本糖尿病対策推進会議」を立ち上げました。

同年、福岡県においても糖尿病患者数が増加する中で、糖尿病有病者の増加を抑制するための方策を協議し、また、地域や職域等それぞれの場面での糖尿病予防対策についての情報交換を行うことを目的に「福岡県糖尿病対策会議」を設立され毎年開催されています。

構成は、現在、福岡県、福岡県保健所長会、福岡県医師会、福岡県歯科医師会、日本糖尿病学会九州支部福岡、日本糖尿病協会福岡県支部、学識者経験者で構成しています。具体的な取り組みとしては、世界糖尿病デー・ブルーライトアップイベントの開催、健康21世紀福岡県大会への参加、いきいき健康づくり展(県庁ロビー)、糖尿病性腎症重症化予防対策などです。